

- GPA特集第6弾
- FD活動報告
- センターからのお知らせ
- スタッフからひとこと

## アメリカの州立大学での履修撤回制度と再履修制度



### GPA制度を支える諸制度

本学でのGPAの検討は、成績評価を素点で出してみてもGPAを導入したらどうなるかシミュレーションをやってみよう、という段階に入っています。GPAの本体部分に関する議論は、少なくとも平成24年度の成績分布を見てみながら、ということになっています。ところで、GPAとは、単に成績評価の平均値を出す、というものにすぎません。例えばGPAのある数値（米国では2.0）を卒業要件として使うか、というように、問題の本質は、GPAをどう使うかというところにあります。GPAを本格的に使うためには、学生が低GPAに陥らないようにする仕組みも同時に考える必要があります。そのうちの重要なものに、履修撤回に関する制度と再履修に関する制度があります。今回はその二つについて、アメリカのいくつかの州立大学での状況を見てみたいと思います。なお、現段階では、それら2制度については、本学では大まかに言って次の形で提案されています。

**履修撤回制度**：第3週までの撤回は記録に残らない。第4週から10週までの間は、病気等の特別な理由がある場合のみ履修撤回を認め、「不可」としてGPAに算入されることはない。

**再履修制度**：Dまたは「不可」を取った場合、同じ授業を履修して新しい成績で古い成績を上書きし、GPA値が下がることを防ぐ。

### アメリカの州立大学での状況

国立大学である信州大学での制度設計の参考とするため、今回もアメリカの州立大学の状況をいくつか調べてみました。表の中の用語の意味は次の通りです。

アド(add)：履修する授業を追加登録する。

ドロップ(drop)：履修している授業の登録を取り消す。アド・ドロップ期間後の取り消しはwithdrawal (W)と呼ばれる。

リポート(repeat)：低い成績や不可はGPA値を下げるので、同じ授業をもう一度履修し古い成績を新しい成績で置き換える。

大学名	オンラインでのアド期限	アド期限以降のアド	オンラインでのドロップ期限	ドロップ期限以降の履修撤回期限と成績
Cleveland State University	学期第1週	担当教員の承認が必要	学期第2週	学期第10週 W
Colorado State University	学期開始後12日め	担当教員の承認が必要	学期開始後12日め	学期第8週 W
Grand Valley State University	学期第1週	担当教員の承認が必要	学期第1週	学期第9週 W
Lake Superior State University	学期開始後6日め	担当教員の承認が必要	学期開始後6日め	学期第8週 *N
North Carolina State University	学期開始後5日め	10日めまでは担当教員の承認が、それ以降は担当教員に加えて学部長の承認が必要	学期開始後10日め	学期第8週 W
Oregon State University	学期開始後10日め	担当教員の承認が必要	学期開始後10日め	学期第7週 W(Wは12科目まで)
Portland State University (クォーター制)	学期開始後12日め	担当教員の承認が必要	学期第2週	学期第7週 W
University at Albany (SUNY)	学期開始後6日め	担当教員の承認が必要	学期開始後10日め	学期第11週 W
Washington State University	学期開始後5日め	担当教員の承認が必要	学期開始後30日め	学期第13週 W(Wは4科目まで)
Winona State University	学期開始後5日め	担当教員の承認が必要	学期開始後5日め	学期第12週 W

\*Lake Superior State Universityでのドロップ期限以降の履修撤回の成績表記はNだが、他大学でのWと同じくGPAに算入されない。なお、同大学はWは9週以降のやむを得ない事情による履修撤回の際に用いられる。

大学名	レポートの対象となる成績	レポートの回数制限	備考
Cleveland State University	DまたはF	1回	C以上のレポートも可能だが、レポート前の成績もGPAに算入される
Colorado State University	記載なし	1回	このオプション行使は最大10単位・3科目まで
Grand Valley State University	制限なし	1回(2回め以降はアドバイザーと学部の承認が必要)	レポート前の取得単位は取り消される(レポート申請用紙上の記載事項)
Lake Superior State University	NまたはW以外(注: NとWの場合、「レポート」にはならないので)	2回	
North Carolina State University	D+もしくはそれより下(アドバイザーの許可があればCでもレポートできるが、BやAではできない)	1回(2回め以降のレポートは学部長の許可が必要)	
Oregon State University	言及なし	言及なし	
Portland State University	言及なし	言及なし	最初の成績がC-以上であれば、レポートの成績に関わらず単位は残る
University at Albany (SUNY)	言及なし	言及なし	
Washington State University	C-もしくはそれより下, W	1回	
Winona State University	言及なし	言及なし	

## 考察

アメリカの大学では授業料は履修単位数で決まり、アドや早い段階でのドロップは授業料の追加や払い戻しを伴います。そのため、履修登録単位数と授業料が連動しない日本の大学とは、学生の心構えという点で事情が大きく違うということが想像されます。それを念頭に置いた上で、信州大学での参考としたいと思います。

まずアド・ドロップ期間ですが、現状の提案の「第3週まで」はアメリカよりも寛容です。一方、ドロップ期間後の取り消しは、アメリカでは

- ・第7週～13週を期限とし
  - ・その期限内の取り消しは特別な理由を求められることなく可能であるが
  - ・それ以降は特別な理由がある場合のみ認められる
- となっており、ドロップ期間後である第4週以降の取り消しに特別な理由を求めている現状の提案は、かなり厳しい

ものと言えます。また、取り消し(W)の数に制限を設けている大学もあり、注目に値します。

レポートに関してはコンセンサスはないようで、大学によって様々です。今回の調査では過半数の大学がレポートの回数を制限しています。なお、レポート時の成績について、Cを上限とする、というような制限を設けている大学はありませんでした。また他大学での履修単位のレポートや、科目の番号が変わった場合についても規程で触れられていますので、レポートの対象が「同じ担当教員による全く同じ授業」でなければならないとは考えられていないようです。

夏休み明けから、GPAを支える諸制度の制度作り・意思決定のプロセスが進められていくことになっています。上記の調査が少しでも参考になればと思っています。また「外国や他大学のこういう制度について調べてほしい」というリクエストがあれば、センターにぜひご連絡ください。(文責:加藤鉦三)



## 高等教育コンソーシアム信州英語教育小部会FDが開催されました



8月8日(水)14時より、高等教育コンソーシアム信州英語教育小部会FD「Assessing and Motivating Students—成績評価と動機づけを考える」が開催され、コンソーシアムの教育部会長を務める本センターの加藤鉦三教授が趣旨説明を行いました。本FDは、松本キャンパスから遠隔講義システムを用いて県内8大学10会場にリアルタイム配信され、県内大学教職員だけでなく、県内の高校教員や高校生を含む35名が参加しました。

★当日の資料を含む詳細は高等教育コンソーシアム信州のウェブサイトをご覧ください★

▲趣旨説明を行う加藤鉦三教授 →<http://www.c-snet.jp/>

**お知らせ** 高等教育コンソーシアム信州連続講演会「発達障害のある学生への支援」第3回・第4回開催のご案内

**【第3回】10月3日(水)13:00~14:30「卒業後に向けた支援—就職支援、進路支援」** **【申込み締切:9月30日(日)】**  
 発達障害のある学生の「卒業後」について考えます。進学や転学部などをどう考えるか、就職に向けての支援、利用可能な専門機関や制度を紹介します。

**【第4回】10月31日(水)13:00~14:30「大学として何が出来るか、どこまでやるべきか」** **【申込み締切:10月28日(日)】**  
 発達障害のある学生の学生生活を支えるために、大学として何が出来るかを考えます。支援者としては、どこまでやるべきかと悩むこともあります。発達障害のある学生が増えていく時代の中、支援のあり方について考えていきたいと思っています。

◆講師:高橋知音(信州大学教育学部教授)  
 ◆会場:【メイン会場】教育学部図書館2階視聴覚室 ※下記の各会場に遠隔配信を行います。  
 松本キャンパスSUNS大会議室/工学部SUNS会議室/農学部12番講義室/繊維学部SUNS会議室、他県内大学

★お申し込みは高等教育コンソーシアム信州ウェブサイト申込みフォームよりお願いします★

## スタッフからひとこと

センター発足から1年半、ニューズレターも12号となりました。少しでもセンターを身近に感じていただけるようなレターになるよう、これからも工夫していきたいと思っておりますので今後よろしくお願いいたします。(学務課教務グループ 宮澤加奈)

